

昼食・飲物代	50,580円
謝礼・その他	67,000
諸 雑 費	1,850
支 出 合 計	754,000

現地研究会に参加して

佐 藤 拓次郎

10月2日新得町公民館に集合し、午前11時より、現地研究会の開会式が行われ、大原会長の挨拶のあと、十勝支庁長から管内農業事情について講演があり、次に地元新得町長の歓迎の挨拶があり、昼食後2台のバスに参加者約80名が便乗し、2日間の現地研究会の途についた。まず、最初の見学地である清水町のスプリングファームを訪問した。場長の佐々木氏により、概要説明があり、施設を見学した。本場の特色は限られた草地70haにおいて、圧縮成型乾草調製機ユニドライの導入により、製品ロスが少なく、栄養価の高いヘイウエハーを生産し、普通の標準よりも50%ぐらい多く乳牛を飼養する可能性があるため、将来200頭(39搾乳牛130頭)を飼養し、昭和50年には年間牛乳生産量を800tを目標としている。施設設備が3,200万円で、年間500tの製品を生産するとしても、生草生産費を加算しないで、製品1Kg当り22~23円の生産費がかかるそうである。乾草や草サイレージに比べると単位栄養価当りの費用価の点でヘイウエハーの方がかなり高いので、予乾等により、更に生産費の低減をはからなければ牛乳生産費の低減が困難なように考えられる。次に小野瀬牧場を訪れたが、本場では井関式のヘイタワーが設置されており、直径10m、高さ11mの約200tのヘイが生産されていた。デントコーンにヒエを混播したものをサイレージとし、放牧を行わずに乳牛200頭を飼養し、うち搾乳牛80頭で年間の牛乳生産量500tを挙げ、1頭で7,000~8,000Kgの生産を上げるものもあり、道内でも牛乳出荷量の最高水準を挙げている。

次に鹿追町営の乳牛育成牧場を訪れ、町長並に農産係長より説明があった。標高300~400m丘陵地で、昭和40年より草地造成を開始し、現在約265haの草地となっており、放牧実頭数も約800頭で、生草生産量も10a当5t以上あり、乳牛の増体量も高いようである。標高も高く、時刻も午後4時ごろでもかなり冷え込みがはだに感じられた。

以上第1日は3カ所の見学を終了し、宿泊地の然別湖畔へ向った。湖畔の森林は青い針葉樹の中に、白樺、楓、ナナカマド等が黄葉、又は紅葉し、湖面のさざなみにその影を写し、実に見事な景観であった。湖畔荘と福原荘に宿し、湖畔荘で総会並びに地元市町村と全道関係団体会社31社の協賛により、盛大に懇親会が行われた。最後に本現地研究会を通じて、地元の幹事役で終始お世話をいただいた新得畜産試験場の及川部長を初め、帯広畜産の関係の方々並びに北海道農試畑作部の小梁川室長、帯広開発建設部の関係各位に対し、深く感謝の意を表します。